

高齢者パネル調査を用いた社会参画プラットフォーム

づくりに資する統計的分析の検討

久保田 貴文 (多摩大学)、後藤 晶 (明治大学)、加藤 みずき (多摩大学)

1. はじめに

本研究では、ジェロントロジー宣言 (寺島、2018) の中で高齢化社会のさまざまな課題として取り上げられている、宗教、医療・健康、美容、金融、農業、観光について、多摩地域などの大都市郊外地域における高齢者について現状の包括的な把握を目的とした。そのために、多摩大学が主体となり実施したジェロントロジーパネル調査を基に、社会参画プラットフォームづくりに資する統計的分析を実施した。特に、本報告では観光人材育成のために、「外国語によるコミュニケーション」に関する項目を検討することを目的とした。

2. 調査について

Web によるパネル調査として、居住地が東京 23 区 (都心)、多摩地域 (大都市郊外地域)、田舎地域に分けて、各 300 人程度の抽出を目標として行った。項目の内容としては、主観的幸福度、不安、今後の見通し、ソーシャルキャピタル、意識に関連する項目、就労状況、さらには、海外居住経験、外国語によるコミュニケーションなどを調査した。

3. 分析結果

上記調査により収集したデータを基にクロス集計により傾向を探るとともに、ナイーブベイズなどの機械学習の手法を実施した。東京 23 区、多摩地域、田舎地域の 3 つの層で分析した結果を基に、地域ごとの各変数の重要度について考察した。詳細については当日会場にて報告する。

4. まとめと今後の展望

本報告ではジェロントロジーパネル調査の実施および外国語によるコミュニケーションに関する項目の検討について分析結果をもとに紹介した。今後は同調査を用いてほかの分野の内容についても検討する予定である。

謝辞

本研究は私立大学研究ブランディング事業 (大都市郊外型高齢化へ立ち向かう実践的研究 -アクティブ・シニア活用への経営情報学的手法の適用-) の一部として実施した。

参考文献

[1] 寺島実郎 (2018), ジェロントロジー宣言―「知の再武装」で 100 歳人生を生き抜く, NKH 出版